

精密加工会社が経営安定拡大を 目指して新工場を建設

課題

大手メーカー依存型から 経営の多様化が課題

株式会社丸北工業の創業は昭和61年。当初は家内工業だったが徐々に規模を拡大し、平成26年7月には現在の喜多方市塩川町の工業団地に移転した。MCやNC旋盤機、複合加工機などの切削機械を30台保有し、昼夜2交代の生産体制を有している。

同社の強みは、ミクロン単位の高精度の切削加工を短納期で量産する生産体制だ。受注量の大幅な増減にも対応できる柔軟さで、その誠実な仕事ぶりから顧客と厚い信頼関係を築いてきた。シグマ社製一眼レフデジタルカメラ用交換レンズの金属製フレームの切削加工など、大手メーカーからの受注の多さはそうした努力の結果といえるだろう。

大手メーカーとの取り引きは事業の拡大に結びつく一方で、クライアント企業の製品開発やマーケティング戦略全体の影響を大きく受けることも事実。同社の場合も、シグマ社向けに生産体制の一部を常に確保している状況でもある。

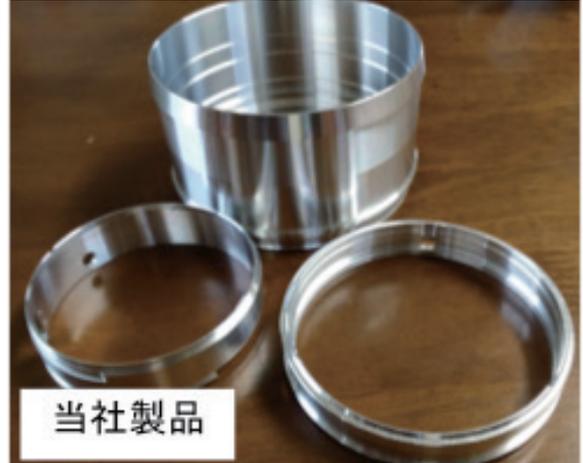
シグマ社の要求に対応することで技術力の蓄積を図ることができ、今後も同社が最大の取引先であることには変わらないが、将来を見据えるとカメラ以外の新たな製品分野へ進出は不可避だった。このため、平成28年に「CNC精密旋盤」や「コンパクトマシニングセンタ SPEEDIO」など高度な精密加工を可能にする工作機械を導入してきたが、生産力強化を図ることが求められていた。

支援

新工場の建設とボトムアップ型の 組織の構築を支援

そこで同社は、カメラ用交換レンズ部品の生産拡大のためには新工場建設が有効と判断。きたかた商工会とともに、計画の立案と、その計画を実現するための資金調達を進めることにした。

内容としては、経済産業省の津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金の申請支援や、複合加工機導入によるデジタルカメラ交換レンズ部品の生産力強化を図る計画の作成支援を行った。具体的には既存工場と新設工場のうち、より高度な精密加工を要する生産工程を新たな第二工場に集中させて、同社の主力工場として稼働させる計画。シグマ社からの増産要求や他社との新規取り引きに対応するためにも、



同社製品の一眼レフカメラ用交換レンズフレーム

工作機械の追加が必要な状況に対応することとした。同時に新たに導入されたNC旋盤では1人2台、MC旋盤については1人4台を目標に工作機械の多台担当制を推進し、現場レベルで自発的に管理・改善を継続的に行うボトムアップ式の工場運営の実現に成功した。

これらの結果、新工場移転後に売上高は1億円からほぼ倍増。さらに、シグマ社との取り引きで培った精密加工の技術力を活かして新たな製品分野に進出したことが功を奏し、取引先を増やすとともに、単純な切削加工から複雑加工へと技術力の高度化に向けた飛躍も期待されている。

支援の経過

期間	支援内容
H25年	生産拡大に伴う新工場建設計画作成
H26年	ものづくり補助金の申請支援
H28年	経営力向上計画の作成支援
H29年	企業立地補助金計画の作成支援

会社概要

会社名：株式会社丸北工業
住所：福島県喜多方市塩川町小府根字畑ケ田50-10
電話番号：0241-23-5066
代表者名：代表取締役 北澤進
創業年：昭和61年
年間売上高：2億700万円（平成28年）
従業員数：24名
商工会名・担当者名：きたかた商工会・穴澤竜也